

# 足利風 -ashikaga-fu

2024  
夏号  
Vol.90



画：伊村恵利佳

## 足利市民活動センター

開館時間：平日 10:00～19:00

休館日：土・日・祝日・第3月曜日

〒326-0052

栃木県足利市相生町1-1

足利市生涯学習センター3F

TEL 0284 (44) 7311

FAX 0284 (44) 7312

Mail [info@shimin-act.jp](mailto:info@shimin-act.jp)

HP <http://www.shimin-act.jp>

HP QR コード



## ☆ ご案内 ☆

- \*特集!  
「あの素晴らしい愛をもう一度」
- \*言葉のあやとり  
「COMMON“コモン”=共通の、共有地。」
- \*私のボランティアことはじめ  
「有機農業が今後必要になってくる」
- \*マチのちゃぶ台  
「フォーラムからこどもの居場所づくりへ」
- \*INFORMATION

**\* 特集！ \***

**「あの素晴らしい愛をもう一度」**

これが私のふるさとだ さやかに風も吹いている

ああ お前は何をして来たのだと・・・  
吹き来る風が私に云う

中原中也「帰郷」

かつて短期間だが一世を風靡したフォークグループがあった。フォーク・クルセダーズ。

代表作は「悲しくてやりきれない」(サトウハチロー作詞・加藤和彦作曲)

～胸にしみる空のかがやき 今日も遠くながめ涙を流す

悲しくて 悲しくて とてもやりきれない

子のやるせない モヤモヤを だれかに告げようか

白い雲は 流れ流れて 今日も夢はもつれ わびしくゆれる

悲しくて 悲しくて とてもやりきれない

この限りない むなしさの 救いはないだろうか・・・

メンバーの一人・北山 修は1946年淡路島生まれ。京都府立医大在学中にフォーク結成に参加。のち精神科医・臨床心理士・作詞家として活躍。

群大医学部の研修の帰路、足利で、旧日赤の隣にあった“蕎麦屋”でよく一緒にそばを喰った。きっかけは、当時日本のボランティア・シーンを席卷していた(社)日本青年奉仕協会(JYVA)の関東甲信越研究集會に、記念講演講師に私が、彼を呼んだことだった。

きたやま・おさむの近著「むなしさの”味わい方”」(岩波新書)は、団塊世代を中心として全国的に話題を呼んでいる。～自分の人生に意味はあるのか、自分に存在価値はあるのか・・・。誰にでも訪れる”むなしさ”。便利さや快適さを追求する現代では、その感覚は無駄とされてしまう。しかし、ため息をつきながらも、それを味わうことができれば、心はもっと豊かになるかもしれない。

失くしたものが見つからなかったとしても、築いたものが壊れたとしても、人から裏切られたとしても、そこに”むなしさ”を感じている、かけがえのない”私”が見つかることだけは確かな事実なのです。 (M生)

**\* 言葉のあやとり \***

**「COMMON」 “コモン” = 共通の、共有地。**

昔はヨーロッパでも日本でも、村落共同体は“共有地”を持っていました。

それを村人たちは共同で管理していました。草原で牧畜をしたり、森の果実やキノコを採取したり、湖や川で魚を採ったりしていました。「みんなが、いつでも、いつまでも使えるように」が合言葉でした。産業革命そして資本主義による“困い込み”により、費用対効果の高い使用法の導入により、やがて村落共同体というものが消滅してしまいました。共同で維持していた伝統芸能や生活文化・相互扶助の仕組みもなくなっていきました。現在、それに気づいた人々が自分のご近所や地域から始まる新しいコモンの復活を目指して連帯して活動を、世界各地で起こしています。

## \* 私のボランティアことはじめ \*

### 「有機農業が今後必要になってくる」

昨今環境問題や食糧生産についての問題が議論されている中、農業への姿勢やこれまでの反省が問われる時代に入っていきます。つまり、化学肥料や農薬の影響が周囲の生態系や人間自身へと跳ね返ってくるようになり、生物種の減少や目に見えるような形で身の回りが変化していきます。これは有機農業や自然農と呼ばれるような持続可能なやり方へ移行する最後のチャンスであり、もう次はないという自然からのシグナルであると考えられます。先見性のある先人らがたどり着いていた、虫や草を敵としないで共存共栄のパートナーであるとするやり方は書籍や動画などで現在は多数情報発信されており、若手の農家に限らず消費者や家庭菜園をされる方にも知識として深く理解されてくるようになりました。すなわち、農業の未来を決めるのは農家に限らず、こうした理解の進んだ方の存在が重要になります。

例えば、市街地の農地が縮小に迫られることは地域の移動範囲が狭い土着生物の減少や生物種の単純化を促進する行為であり、同時に人口減少に伴う山間部の耕作放棄地の増加なども問題として出てきます。地域の食材を地域に調達できるようになることやそうした担い手の育成を早急にできなければ食糧自給は難しくなる一方です。担い手となって協力するキーマンが現れることが重要で、同時に受け皿として迎え入れる地域の理解が進んでいることも重要となってきます。

小難しいことを書いてはおりますが、私自身も自然農の手法でトマトを作ろうとしている途上です。省力化しつつ小面積で質の良いトマトの最大収穫量を得ることが当面の目標であり、植物と向き合ったり、自然と向き合ったりすることは自己研鑽の一環と考えています。生命力あふれるトマトを多くの必要とされる方に届けることができるよう今後とも努力を重ねてまいります。

NPO 法人足利水土里探偵団理事

福地 浩気



## \* マチのちゃぶ台 \*

### 「フォーラムからこどもの居場所づくりへ」

とちぎ子どもの権利条約ネットワーク 事務局 三田 和子

2018年に足利を会場に「子どもの権利条約全国フォーラム 2018in とちぎ」を開催しました。当時はまだ「子どもの権利」という言葉は一般的ではなく、開催には難しいこともありましたが、その時につながった仲間たちと「とちぎ子どもの権利条約ネットワーク」を設立し、足利に事務局を置いて今も活動を続けています。

フォーラムから5年が経ち、2023年、子どもの権利条約の精神に則った「こども基本法」が施行され「子どもの権利」という言葉も耳馴染みのある言葉になりました。足利にも当時はなかった「こどもの居場所」ができはじめました。居場所が「こどもの権利」を体現するようなものになることー「おとな」が「こども」に与えるものではなく、「そこに集まるこどもたちと一緒につくりあげていくもの」「こどもにとって一番いいことはこどもと一緒に考える」そんな居場所が増えていくよう、仲間と一緒にこれからも活動していきたいと思えます。

## \* INFORMATION \*

※コロナ感染対策により内容が変更・中止になる場合があります。

### ☆「まちの縁側」～読書サロンへのご招待～

だれにでも心に残る一冊の本があります。童話・小説・詩集・・・等々。  
その一冊の本を導きの糸として、案内人を囲んで、参加者のみなさんと一緒に、  
ワイワイガヤガヤ・・・と。新しい人との出会いや物語を紡いでみませんか。

★令和6年7月20日(土) PM1:00～3:00

- \* 本 : 絵本「おばあちゃんの時計」(評論社)
- \* 案内人 : 中島 由貴子 さん
- \* ひとつこと: 「時間」は時計ではかるものではなく、日々の暮らしの中で感じるもの。  
おばあちゃんとおじいちゃんの家では、豊かな“とき”が流れている。身近な鳥の声、  
花、月や星を通して“とき”は巡る。こんな風に生きられたら幸せだと思います。  
ぜひ、ご参加下さい!

★令和6年8月23日(金) PM2:00～4:00

- \* 本 : 「あゝ野麦峠」(山本茂実)「サンダカン八番娼館」(山崎朋子)
- \* 案内人 : 白田 明さん
- \* ひとつこと: 明治から大正にかけて近代日本の成長期に底辺で日本を支えた娘たちを  
描いたノンフィクションを紹介。  
忘れられつつある近代日本を支えてきた人々について、もう一度思いを  
馳せることが、いま豊かな時代を生きるわたしたちに必要なのではないでしょうか?

■参加費: 無料

■会 場/問い合わせ: 足利市民活動センター ☎44-7311

### ☆「企画展」(交流コーナー) (土・日・祝日・第3月曜日は休館日)

- \* 7月 8日(月)～ 7月18日(木) 足利 俳句・漢詩の世界展
- \* 7月22日(月)～ 8月 1日(木) 足利短歌会展
- \* 8月 5日(月)～ 8月22日(木) ひょうたん展
- \* 8月26日(月)～ 9月 5日(木) やきもの展
- \* 9月 9日(月)～ 9月19日(木) THE ART OF「北の郷物語」展
- \* 9月25日(水)～10月 3日(木) 近代化遺産とまちづくり展

※展示時間・・・10:00～19:00 ただし最終日は15:00まで

### ☆「相談室」&「講座」 ※詳しくは、別紙参照

- \* 相談室 = 7月11日(木) 14:00～16:00 「俳句入門」  
8月 7日(水) 14:00～16:00 「短歌入門」  
9月11日(水) 14:00～16:00 「家庭菜園のすすめ」
- \* 講 座 = 7月13日(土) 13:00～15:00 「居場所をつくる」  
8月28日(水) 14:00～16:00 「地域で教育を」  
9月25日(水) 14:00～16:00 「地域で福祉を」

### 編集後記

東日本大震災のとき、いち早く世界に向けて支援を呼びかけたのは、社会貢献活動で有名な女優ジェーン・バーキン(Jane Birkin)だった。1946年ロンドン生まれ。フランスでモデル・女優・歌手。かつて世良さ抜群の彼女の足元には、“コンバース・オールスター”黒のスニーカー。これを被災地支援の日本のオークションに提供した。ホンモノのカッコ良さを見た気がした。そう言えばフォーカルの北山 修も1946年生まれ。自分より一歳年上のイヌ年生まれだ。2代にわたって飼っていたダルメシアンとの付き合いも30年近かった。というわけで“イヌ派”を標榜していたが、最近センターに“ネコ派”の強力な新星が登場。「ネコも可愛いじゃないか」というセリフも時々漏れている・・・動物愛も溢れているセンターです。(カサブランカ)